

次の文を読み「173」、「174」に答えよ。

Kクリニックに勤務する管理栄養士である。初診時に初回の外来栄養食事指導を行った。

患者は、33歳、男性。会社員。両親と同居。職場の健診で、血糖値が高いことを指摘され、当クリニックを受診し、2型糖尿病と診断された。喫煙、飲酒の習慣はない。

身長170 cm、体重102 kg、BMI 35.3 kg/m²。血圧138/85 mmHg。空腹時の血液検査は、血糖140 mg/dL、HbA1c 7.2%、LDL コレステロール100 mg/dL、HDL コレステロール36 mg/dL、トリグリセリド205 mg/dL、AST 36 U/L、ALT 50 U/L。他に合併症はない。

患者は、幼少期から体が大きく、今まで体型を気にしたことはなかった。患者は、医師からの薬物治療の提案を強く拒絶した。このため、食事療法により、3か月後の目標体重を95 kgとした減量を行うこととなった。

173 患者は、今まで栄養食事指導を受けたことがなく、医師から糖尿病の合併症について説明されたことに対し、「やせなければいけないことは分かりますが、おいしいものが食べられない生活なんて考えられません。」と発言している。

表は、患者から聞き取った普段の食事内容である。この食事内容を例に、患者が継続して食事療法に取り組むための助言として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 朝食にサラダを食べましょう。
- (2) 昼食と夕食のご飯をそれぞれ1杯ずつ減らしましょう。
- (3) 昼食のとんかつ定食は、豚の生姜焼き定食にしましょう。
- (4) 間食は、やめましょう。

表 患者の普段の食事内容

| 朝食 | 昼食 | 間食 | 夕食 |
|----------------------|----------------------|--------------|----------------|
| あんパン(1個) | とんかつ定食 | 缶コーヒー | ご飯3杯(600g) |
| クリームパン(1個) | ご飯3杯(600g) | (ブラック・無糖、1缶) | チキンソテー(むね肉、2枚) |
| コーヒー (ブラック・無糖、1杯) | とんかつ(ロース肉、1枚) | 肉まん(1個) | 野菜炒め(大盛り) |
| バナナ(1本) | キャベツ千切り | | かぼちゃの煮物(小鉢1杯) |
| | ほうれんそうのお浸し (小鉢1杯) | | |
| | 味噌汁 (ねぎ・わかめ、1杯) | | |
| | しば漬け | | |

174 初診から2か月後に、医師の指示で2回目の栄養食事指導を行うことになった。

患者は「頑張って一度は体重が減ったのに、最近は仕事が忙しく、ストレスで食べ過ぎて、体重が元に戻ってしまいました。薬は飲みたくないの、食事で頑張れたら良いのですが。」と発言している。患者が再び食事療法に取り組むために、管理栄養士が最初に発言する内容として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 仕事が忙しくなるまでは、順調に体重を減らせていましたね。
- (2) 服薬が嫌とのことですので、食事療法を今以上に頑張りましょう。
- (3) 体重が増えてきていますが、今どれくらい食べていますか。
- (4) 体重が減らないと、糖尿病の合併症が起きますよ。

次の文を読み[175]、[176]、[177]に答えよ。

Kクリニックに勤務する管理栄養士である。

患者は、48歳、男性。会社員。28歳頃から多量の飲酒習慣があり、急性膵炎の既往があった。脂質異常症はなかった。6か月前から軽度の腹痛を繰り返していたが、痛みが増強し急性期病院に入院した。アルコール性慢性膵炎(代償期)の急性増悪と診断され、内科的治療が行われた。症状は改善し、退院後に当院外来を紹介された。

初回診察時に、患者は「治療を受けてだいぶ元気になりました。お腹が痛くなることはありません。」と話した。

身長165 cm、体重54 kg、BMI 19.8 kg/m²。空腹時の血液検査値は、血糖78 mg/dL、HbA1c 6.0%、総コレステロール168 mg/dL、HDLコレステロール42 mg/dL、トリグリセリド135 mg/dL、アミラーゼ112 U/L(基準値:37~125 U/L)、CRP 0.2 mg/dL。

175 外来で医師から禁酒を指導されるとともに、外来栄養食事指導の依頼があった。患者の1日当たりの目標栄養量の組合せとして、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

| | エネルギー (kcal/日) | 脂肪 (g/日) |
|-----|-------------------|-------------|
| (1) | 1,300 | 10 |
| (2) | 1,300 | 30 |
| (3) | 1,900 | 10 |
| (4) | 1,900 | 30 |

176 外来通院3か月後に、患者から「脂肪の多い食事をすると腹痛があるので、食事に気をつけています。これまでは自宅で作った弁当を会社に持参していましたが、今後は昼食を同僚と近くの飲食店で食べたいと思っています。どのようなメニューを選ぶと良いでしょうか。」と相談があった。患者に適した主菜の例として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) ハンバーグ
- (2) かれいの煮付け
- (3) さばの塩焼き
- (4) 豚の生姜焼き

177 その後、しばらく通院を続けていたが、6か月後から来院しなくなった。

5年後、体重減少と泥状便が続くため再び来院した。本人によると、腹痛は消失しているとのことであった。アルコール性慢性膵炎(非代償期)と診断され、膵性糖尿病に対してインスリン療法が開始された。消化酵素薬を含む内服薬による治療で便の性状は軽快した。体重50 kg。空腹時の血液検査値は、血糖120 mg/dL、HbA1c 6.3%、アミラーゼ48 U/L、CRP 0.4 mg/dL。

栄養食事指導を再開した際、患者は、「仕事の都合で飲酒を再開してしまいましたが、1か月前から断酒をしています。今後は断酒指導を定期的に受けることにします。」と話した。

表は、本人が持参した食事メモである。患者への助言として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 夕食のチャーシューは脂肪が多いので、控えましょう。
- (2) 血糖値が少し高いので、毎食のご飯の量を150 gにしましょう。
- (3) 食事をして腹痛や泥状便が出なければ、脂肪の摂取量を少しずつ増やしてみましょう。
- (4) このままで問題ないので、今の食事を続けましょう。

表 食事メモ

| 朝食 | 昼食 | 夕食 |
|---------------|---------------|----------------------------------|
| ご飯(200 g) | ご飯(200 g) | チャーシュー丼 (ご飯200 g チャーシュー6枚) |
| 大根の味噌汁(1杯) | あじ塩焼き(中1尾) | 中華風コーンスープ(1杯) |
| 納豆(1パック) | 冷奴(小鉢1杯) | |
| バナナ(1本) | かぼちゃの煮物(小鉢1杯) | |
| 低脂肪牛乳(180 mL) | | |

次の文を読み「178」、「179」、「180」に答えよ。

K 病院に勤務する管理栄養士である。

患者は、70 歳、男性。妻と二人暮らし。数日前から食後に嘔吐を繰り返しており、食事が食べられなくなったため、近医を受診した。胃がんの疑いがあると近医から当院を紹介され受診し、内視鏡検査の結果、幽門狭窄を認める胃がんと診断され入院した。

身長 168 cm、体重 55 kg、BMI 19.5 kg/m²。血圧 116/70 mmHg。入院時の血液検査値は、総たんぱく質 6.0 g/dL、アルブミン 3.0 g/dL、Hb 10.6 g/dL。

178 患者は、2 週間後に胃亜全摘術を受ける予定である。手術前日までの栄養補給法として、最も適切なのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 流動食
- (2) 経鼻十二指腸管栄養法
- (3) 末梢静脈栄養法
- (4) 中心静脈栄養法

179 手術後の経過は良好であり、4 日目に 1 日 5 回の分食による食事が開始された。食事内容は、流動食から開始され、段階的に食上げされた。8 日目の朝食は、5 分粥食を 7 割程度摂取でき、昼食は全粥食が提供された。患者が昼食を食べ始めて 30 分経過し、8 割程度を食べ終えたところ、動悸、顔面紅潮がみられ、腹痛と下痢を認めた。

4 日目の食事開始前に栄養食事指導をしていたが、担当医師の指示により、夕食を提供する前に再度指導を行うこととなった。管理栄養士の発言として、最も適切なものはどれか。1 つ選べ。

- (1) 食事に慣れるまでは嘔吐することもありますので、心配ありませんよ。慣れるまでこの調子で食べましょう。
- (2) 食事を残してもかまいませんので、食べられる分だけ、もっとゆっくりよく噛んで食べましょう。
- (3) 全粥食よりも消化しやすい 5 分粥食に戻します。
- (4) 血糖値が低下した可能性があります。食事に補食を付けますので、食後 1 ～ 2 時間後に食べてください。

180 8 日目の昼食時にみられた症状は、その直後に行った栄養食事指導以降はなく、手術後 12 日目に退院することとなった。担当医師から退院後の食事について 1 日 5 回の分食の指示があり、栄養食事指導を行うこととなった。患者に適した間食の例として、最も適切なものはどれか。1 つ選べ。

- (1) おにぎり(うめ) 1 個(100 g)
- (2) クッキー 3 枚(30 g)
- (3) ツナサンドイッチ 2 切れ(100 g)
- (4) クロワッサン 1 個(40 g)

次の文を読み「181」、「182」、「183」に答えよ。

K 総合病院の管理栄養士である。

患者は、75 歳、独居女性。2 か月前から、足腰の痛みがあり、買い物など外出の頻度は減り、食欲も低下していた。隣の県に住む娘が、毎週、様子を見に訪ね、食べ物を渡していた。飲水以外にほとんど食べていない日も時々あることに気付き、心配していた。こうした中、娘がいつものように患者宅を訪ねると、患者は布団から起き上がれないまま、ぐったりしていた。

救急搬送後、腰椎圧迫骨折と診断され、入院となった。意識レベルは JCS II-20。

身長 150 cm、入院時の体重 38 kg(2 か月前の体重 42 kg)、BMI 16.9 kg/m²。空腹時の血液検査値は、アルブミン 2.6 g/dL、血糖 138 mg/dL、尿素窒素 38 mg/dL、クレアチニン 1.3 mg/dL、ナトリウム 138 mEq/L、カリウム 3.1 mEq/L、リン 1.8 mg/dL。

181 患者は、救急搬送されるまでの 2 日間、飲まず食わずで倒れていたことが判明した。輸液療法が行われ意識は回復したが、改訂水飲みテストは 3 点、気力や体力もない状態のため、翌日に経鼻胃管栄養法を開始することになった。標準的な半消化態栄養剤(1 kcal/mL)を用いた栄養補給プランである。最も適切なのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 15 mL/時 24 時間持続投与
- (2) 50 mL/時 24 時間持続投与
- (3) 50 mL/時 × 4 時間/回 × 3 回/日
- (4) 100 mL/時 × 4 時間/回 × 3 回/日

182 経鼻胃管栄養法が開始され、患者の状態は安定した。その日の病棟カンファレンスにおける、他職種への情報共有を目的とした管理栄養士の発言として、最も適切なのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 経鼻胃管栄養法を開始したので、体重は増加してくるでしょう。
- (2) 投与速度を厳重に管理していますが、意識障害や電解質の値に注意していきます。
- (3) 水分も経鼻胃管から補給するので、輸液の投与量は減らすことはできるでしょうか。
- (4) エネルギーとたんぱく質を、必要量補給しています。栄養状態の改善を血中アルブミン値で確認していきます。

183 経鼻胃管栄養法を開始して 4 日目に、患者は「ご飯を食べたい。」と言い、食欲も出てきたようである。改訂水飲みテストは 4 点であり、摂食嚥下支援チームと連携して栄養管理を行うことになった。この時点で行う栄養管理に関する記述である。最も適切なのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 経鼻胃管栄養法を継続し、経口摂取の開始は見合わせる。
- (2) 経鼻胃管栄養法を継続し、ゼリー食を開始する。
- (3) 経鼻胃管栄養法を継続し、全粥食を開始する。
- (4) 経鼻胃管栄養法を中止し、全粥食を開始する。

次の文を読み「184」、「185」、「186」に答えよ。

K病院に勤務する管理栄養士である。

患者は、78歳、女性。4年前に慢性心不全と診断され、外来通院を行いながら、心臓リハビリテーションを受けている。慢性心不全の急性増悪による入院歴がある。通常の日常生活では症状を認めないが、買い物で重いものを運んだり、家の掃除で無理をしたりすると、疲労や動悸を自覚している。摂食嚥下機能に問題はない。

ACE阻害薬、β遮断薬、利尿薬が投与されている。

身長150cm、体重48kg、BMI21.3kg/m²。血圧118/72mmHg、脈拍数82回/分。浮腫あり。空腹時の血液検査値は、アルブミン3.4g/dL、血糖82mg/dL、尿素窒素12mg/dL、クレアチニン0.48mg/dL、ナトリウム142mEq/L、カリウム4.6mEq/L、BNP(脳性ナトリウム利尿ペプチド)218pg/mL(基準値:35pg/mL未満)。

184 1日当たりの目標エネルギー量を1,400kcalとし、外来栄養食事指導を行うことになった。栄養アセスメント項目のうち、心不全の病態が悪化したときに影響を受けやすく、適切な評価が難しくなる可能性のある項目として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 総リンパ球数
- (2) 血中総コレステロール値
- (3) 上腕三頭筋皮下脂肪厚
- (4) 下腿周囲長

185 この患者の1日当たりの目標栄養量の組合せとして、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

| | たんぱく質 (g/日) | 食塩 (g/日) |
|-----|----------------|-------------|
| (1) | 50 | 3 |
| (2) | 60 | 3 |
| (3) | 50 | 5 |
| (4) | 60 | 5 |

186 その後、心不全症状の増悪を認めることなく、外来通院を続けていた。7月下旬に栄養食事指導を行った際に、「毎日暑くて、食欲がなくなってきました。」と相談があった。

体重46kg。空腹時の血液検査値は、アルブミン3.2g/dL、尿素窒素18mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL、ナトリウム133mEq/L、カリウム3.7mEq/L、BNP74pg/mL。

表は、本人が持参した食事メモである。患者への助言として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 食塩が多いので、減らしましょう。
- (2) 昼食に主菜を加えてみませんか。
- (3) 夕食のご飯をお粥にしてみませんか。
- (4) 食べやすい間食を何か加えてみませんか。

表 食事メモ

| | 1日目 | 2日目 | 3日目 |
|----|--|--|---|
| 朝食 | ロールパン(小1個) 炒り卵(卵1/2個) ぶどう(8粒) 牛乳(100mL) | ロールパン(小1個) 炒り卵(卵1/2個) ぶどう(8粒) 牛乳(100mL) | ロールパン(小1個) いちごジャム(10g) キウイフルーツ(1個) 牛乳(100mL) |
| 昼食 | 冷やしうどん(130g) ゆで卵(1個) ほうれんそうのお浸し(小鉢1杯) ぶどう(8粒) ヨーグルト(70g) | そうめん(130g) ミニトマト(1個) きゅうり(1/4本) ロースハム(1枚) ヨーグルト(70g) | そうめん(130g) ミニトマト(1個) きゅうり(1/4本) ロースハム(1枚) キウイフルーツ(1個) ヨーグルト(70g) |
| 夕食 | ご飯(70g) 焼き鮭(40g) もずくの酢物(小鉢1杯) なすの味噌汁(1杯) | ご飯(70g) 冷奴(小鉢1杯) 焼きなす(小1本) わかめの味噌汁(1杯) | ご飯(70g) まぐろの刺身(3切れ) サラダ (きゅうり、トマト) ドレッシング なめこの味噌汁(1杯) |

次の文を読み「187」、「188」、「189」に答えよ。

K 特定給食施設に勤務する管理栄養士である。

K 特定給食施設では、食中毒予防のため、調理従事者に向けた衛生研修会を毎月実施している。この研修会では、わが国での発生件数、患者数が多い食中毒を取り上げ、K 特定給食施設におけるインシデントと関連づけて、衛生管理の教育を行ってきた。

187 次回の研修会は、カンピロバクター・ジェジュニを原因とした食中毒予防を目的に実施することになった。研修会で取り上げるインシデントである。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 検収記録簿に、鶏肉が12℃で納品された記録があった。
- (2) 下処理室の器具用の消毒保管庫が、70℃に設定されていた。
- (3) フライヤーに鶏肉を投入する調理従事者が、使用後の手袋をフライヤー脇の調理台に放置した。
- (4) 加熱後の鶏の照り焼きを温蔵庫に入れ忘れた。

188 研修会の内容を検討した。カンピロバクター・ジェジュニを原因とした食中毒予防に向けて、調理従事者に優先的に教育すべき事項である。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 発症経過
- (2) 感染経路
- (3) 潜伏期間
- (4) 臨床症状

189 今回取り上げたインシデントを踏まえ、研修会で調理従事者に教育すべき衛生管理の内容である。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 食材料の検収と保管の方法
- (2) 食材料と器具等の洗浄・殺菌方法
- (3) 調理後の食品の温度管理
- (4) 調理工程における二次汚染の防止方法

次の文を読み「190」、「191」、「192」に答えよ。

K 有料老人ホームに勤務する管理栄養士である。K 有料老人ホームでは、毎食 100 食をクックサーブ方式で提供している。食事は 8 週間のサイクルメニューである。この 1 年間は調理従事者の入れ替えはなかった。

最近、主菜の肉料理の摂食率が低下してきた。表は、主菜の肉料理の 3～4 月と 5～6 月の摂食率(%)と提供回数の実績である。また、今年 6 月の嗜好調査では、主菜について、「肉が硬い」、「肉の味が落ちた」、「鶏肉の料理の回数が多い」という回答が多かった。

そこで、主菜の肉料理について改善に取り組むことにした。なお、3～4 月と 5～6 月で肉類の契約単価は同じであった。

表 主菜の肉料理の 1 サイクルの提供回数と摂食率

| 主材料 | 提供回数 (回) | 摂食率(%) | |
|-----|-------------|--------|------|
| | | 3～4月 | 5～6月 |
| 肉類 | 60 | 86 | 83 |
| 牛肉 | 14 | 80 | 67 |
| 豚肉 | 20 | 85 | 84 |
| 鶏肉 | 26 | 90 | 90 |

190 肉料理の摂食率を改善するために確認すべき帳簿等である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) 検収記録簿
- (2) 作業工程表
- (3) 加熱温度記録表
- (4) 作業動線図
- (5) 検食簿

191 設問 190 の帳簿等の確認の結果、調理方法に問題はないと判断した。肉料理の摂食率を改善するために、次に行うべき対応である。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 肉料理の提供回数を減らす。
- (2) 肉料理の提供重量を見直す。
- (3) 納品された牛肉の品質を確認する。
- (4) 鶏肉料理の提供回数を増やす。

192 設問 191 の対応と併せて行うべき取組である。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 食品構成表を修正する。
- (2) 大量調理に適した肉料理の新メニューを検討する。
- (3) 作業指示書の加熱温度を修正する。
- (4) 肉の取引業者との契約内容を見直す。

次の文を読み「193」、「194」、「195」に答えよ。

K 女子大学に勤務する、管理栄養士の資格を持つ教員 A である。

学生の健康診断結果から、学生の 30% がやせ(低体重)または肥満に該当することが分かった。そこで、プレコンセプションケアの一環として、学生が自身の適正体重を知り、適切な食生活を実践するための支援を、大学の健康管理センターが実施することになり、教員 A に協力依頼があった。

193 全学生を対象に、学生の体型への意識や健康状態に関する質問紙調査を実施した。表は、体格区分別に集計した結果である。この結果から読み取れる課題に関する記述である。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) やせの学生のうち、現在の体重を減らしたいと考えている者は 50% である。
- (2) 自分の適正体重を知らない者の割合は、いずれの体格区分の学生においても 50% 以上である。
- (3) 現在ダイエットをしている者の割合は、普通体重の学生で最も高い。
- (4) 月経周期異常が現在ある者の割合は、普通体重の学生の方が、やせの学生よりも高い。
- (5) やせの学生では、骨折経験がある者の割合の方が、貧血が現在ある者の割合よりも高い。

194 質問紙調査の結果を踏まえ、全学生を対象に「K 女子大学ヘルス&ビューティプログラム」を行うこととした。プログラムの実施に関する記述である。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 適正体重と女性の生涯の健康をテーマとしたワークショップを、学年別に行う。
- (2) 不適切なダイエットと骨折の関連をテーマとしたアニメーション動画を、学内のデジタルサイネージで流す。
- (3) 産婦人科医による、やせ・肥満と月経周期異常の関連をテーマとした講演動画のリンクを、大学のウェブサイト上に掲載する。
- (4) 貧血を予防・改善する食事をテーマとした e ラーニング教材を作成し、自己学習を推奨する。

195 質問紙調査の結果から、栄養情報の入手先の 1 位がインターネットであることや、栄養情報の真偽をチェックしている学生が少ないことが分かった。この現状を踏まえ、学生のヘルスリテラシーを高める教育を、教員 A の授業で実施することにした。その内容に関する記述である。最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 学生が、インターネットを用いてダイエットに関する情報を検索、閲覧、収集する。
- (2) 学生が、インターネットを用いて日本以外の国の女性の体型認識について調べ、授業内で発表し合う。
- (3) 学生が、どうすればダイエットに関する誤った情報に振り回されないかの講義を聞いた上で、学生間で議論する。
- (4) 学生が、不適切なダイエットが身体へ及ぼす影響について教わった内容を、学内ネットで全学生に配信する。

表 K 女子大学の全学生(1,000 人)の質問紙調査結果※

単位：人

| | | 体格区分 | | |
|--------------------|----------|--------------------|-----------------|--------------|
| | | やせ(低体重) (250 人) | 普通体重 (700 人) | 肥満 (50 人) |
| 現在の体重について | 減らしたい | 50 | 350 | 20 |
| | 現状のままで良い | 175 | 280 | 25 |
| | 増やしたい | 25 | 70 | 5 |
| 自分の適正体重について | 知らない | 125 | 350 | 20 |
| 現在ダイエットをしている | 当てはまる | 12 | 210 | 10 |
| 骨折経験 | あり | 70 | 70 | 3 |
| 月経周期異常 | 現在あり | 50 | 70 | 9 |
| 貧血 | 現在あり | 90 | 140 | 5 |
| 栄養情報の入手先(複数回答) | 家族 | 85 | 203 | 10 |
| | 友人・知人 | 60 | 210 | 14 |
| | 栄養の専門家 | 15 | 28 | 1 |
| | テレビ | 50 | 112 | 5 |
| | 雑誌や本 | 10 | 56 | 3 |
| | インターネット | 130 | 245 | 23 |
| 栄養情報の真偽のチェックをしているか | している | 50 | 126 | 10 |

※全ての項目において欠損値はなかった。

次の文を読み「196」、「197」、「198」に答えよ。

中核市である K 市保健所健康推進課に勤務する管理栄養士である。

K 市では、男性壮年期の肥満者の割合が高い。このため、K 市健康増進計画では、食環境整備の一環として、食事の提供を通じて身体状況の改善を図る事業所特定給食施設の割合の増加を目標としている。

そこで、管内の事業所特定給食施設(25 施設)を対象に、目標達成に向けた支援を行うことになった。

196 表は、事業所特定給食施設から提出を受けた栄養管理報告書の集計結果である。

目標達成のために優先的に実施を促す内容として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) やせ・肥満者の割合の把握
- (2) 生活習慣病の有病率の把握
- (3) 嗜好の把握
- (4) 摂取量の把握

表 栄養管理報告書の集計結果(一部抜粋)

| | | | 施設数 (25 施設※) | 割合 (%) |
|---------------|--------------------|----|-----------------|-----------|
| 栄養管理担当者 | 栄養士・管理栄養士配置 | あり | 6 | 24 |
| 給食の運営方式 | 委託 | あり | 25 | 100 |
| 給食会議 | 設置 | あり | 12 | 48 |
| 栄養計画 | 給与栄養目標量の設定 | あり | 20 | 80 |
| | <詳細な情報の把握内容>(複数回答) | | | |
| | ・性別・年齢 | | 20 | 80 |
| | ・身体活動レベル | | 14 | 56 |
| | ・やせ・肥満者の割合 | | 10 | 40 |
| | ・生活習慣病の有病率 | | 5 | 20 |
| | ・給食以外の食習慣の状況 | | 5 | 20 |
| 食事提供方法(複数回答) | 複数献立 | | 15 | 60 |
| | 選択食(カフェテリア) | | 10 | 40 |
| ヘルシーメニュー | 提供 | あり | 12 | 48 |
| 給食評価の方法(複数回答) | 嗜好調査 | | 6 | 24 |
| | 摂取量調査 | | 4 | 16 |

※ 1 回 500 食以上または 1 日 1,500 食以上の食事を供給する施設 : 0 施設
 1 回 300 食以上または 1 日 750 食以上の食事を供給する施設 : 5 施設
 1 回 100 食以上または 1 日 250 食以上の食事を供給する施設 : 20 施設(上記施設を除く。)

197 設問 196 の実施を促すため、事業所特定給食施設の担当者と給食受託会社側の担当者を対象とした研修会を開催することになった。初回の研修内容として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 利用者の身体状況を給食運営に反映させた事例の紹介とグループワーク
- (2) 肥満者に対する食事指導に給食を活用している施設からの事例発表とグループワーク
- (3) ナッジを活用した食事提供方法に関する大学教員の講義と演習
- (4) 摂取量把握のためのアプリ活用方法に関する大学教員の講義と演習

198 研修内容を踏まえ、各施設での取組状況を継続的に把握していくことになった。優先的に確認する事項として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 事業所の食堂管理担当者および健康管理部門担当者、給食受託会社、利用者が参加する給食会議の実施
- (2) 給食を活用した利用者への食事指導の実施
- (3) ナッジを活用した食事提供方法の取組
- (4) 利用者の嗜好を反映させた食事提供の実施

次の文を読み「199」、「200」に答えよ。

K 県健康増進課に勤務する管理栄養士である。

K 県では 5 年ごとに国民健康・栄養調査の方法に準じた県民健康・栄養調査を実施し、県民の栄養素等摂取量の平均値を求めて、前回調査からの変化を比較することで、施策の評価につなげてきた。しかし、これまでは、県民における栄養素の摂取不足者の割合を評価することができなかった。

そこで、今回の調査では、これまでの調査結果との比較に加え、日本人の食事摂取基準を基に EAR カットポイント法を用いた評価を行うことを目的として、食事調査方法を検討することになった。

199 今回の調査目的を達成すると同時に、対象者の負担を考慮しつつ実施できる食事調査方法に関する記述である。最も適切なのはどれか。1 つ選べ。

- (1) K 県で妥当性が確認された食物摂取頻度調査法で、調査を行う。
- (2) 24 時間食事思い出し法で、1 日間の調査を行う。
- (3) これまでの食事記録法で、7 日間連続の調査を行う。
- (4) これまでの食事記録法で、連続しない 2 日間の調査を行う。

200 栄養素の摂取不足者割合の評価に関して、今回の食事調査方法で期待できる内容である。最も適当なのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 過少申告による影響の軽減
- (2) 誤記入によるエラーの影響の軽減
- (3) 季節変動による影響の軽減
- (4) 集団における習慣的な摂取量分布の推定精度の向上
- (5) 集団における平均値の推定精度の向上